

令和7年度使用
中学校用教科用図書
採択参考資料

理 科

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	理科 002-72・002-82・002-92
4 大日本	理科 702・802・902
11 学図	理科 011-72・011-82・011-92
17 教出	理科 017-72・017-82・017-92
61 啓林館	理科 061-72・061-82・061-92

理 科

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 4 大日本 11 学図 17 教出 61 啓林館

2 調査研究の観点

- (1) 自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 安全に観察、実験、野外観察などを行うことができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 「第1分野」と「第2分野」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 挿絵、写真、図表等の内容が適切であり、学習内容の理解や問題の解決に役立つよう配慮されているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究 …………… 観点(1)(2)(4)
 - ① 領域別の構成
 - ② 観察・実験・野外観察、発展的な内容等の構成
 - ③ デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数
- (2) 主体的に追究する活動に関すること …………… 観点(1)
- (3) 観察・実験・実習等に関わる内容について …………… 観点(2)
- (4) 学習の系統性と発展的な内容について …………… 観点(3)
- (5) 全体的な表記・表現について …………… 観点(4)

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	1年			2年			3年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
物理領域 (第1分野)	1	50	22%	1	62	22.5%	1	62	21%
化学領域 (第1分野)	1	68	29%	1	74	27%	1	64	21%
生物領域 (第2分野)	1	60	26%	1	78	28%	1	54	18%
地学領域 (第2分野)	1	54	23%	1	62	22.5%	1	58	19%
4領域共通	—	—	—%	—	—	—%	1	62	21%
合計	4	232	100%	4	276	100%	5	300	100%

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験・実習、発展的な内容等の構成

項目等	1年	2年	3年
	項目数	項目数	項目数
観察・調査・観測	7	5	5
実験	13	23	16
実習	2	2	7
発展的な内容を示すマーク	8	22	32

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

		1年	2年	3年
デジタルコンテンツを使って学習できる箇所	物理領域 (第1分野)	26	42	57
	化学領域 (第1分野)	57	49	41
	生物領域 (第2分野)	41	56	42
	地学領域 (第2分野)	36	46	40
	4領域共通	5	6	50

2 主体的に追究する活動に関すること

- 巻頭に、「『探究』の流れを確認しよう」が設定されている。
- 単元の導入では、その単元の自然の事物・現象を見開きで示しており、次に「これまでに学んだこと」「この単元で学ぶこと」が示されている。
- 探究の過程が統一された言葉で示され、実験のまとめの後に「学びをいかして考えよう」が設定されている。
- 単元末に、「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」が設定されている。
- 単元・章の導入と単元末・章末で、同じ問いについて考える「Before & After」が設定されている。
- 「レッツ スタート！」で学習する内容と日常の事象を関連付けた問いが設定されている。

3 観察・実験・野外観察等に関わる内容について

- 観察・実験等の手順が、文章だけでなく図や写真で示されている。また、準備する物にはチェックする欄が設けられている。
- 巻頭や巻末に、「理科室の決まり」「主な薬品の性質ととりあつかいの注意」「科学であつかう量の測定と表し方」が示されている。
- 巻末に、実験器具の操作方法等が「基礎操作」でまとめて示されている。
- 観察・実験等の際の安全に関して注意を促す場面には、赤字で「注意」と示され、注意する観点がマークと文章で示されている。
- 観察・実験の目的や意味を確認するための質問が「？」マークや、観察・実験をじょうずに行うためのこつが、「かぎ」マークとともに示されている。
- 観察・実験等のページと結果のページが、見開きにならないように構成されている。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 4領域が各学年で異なった順で配列されている。
- 日常生活や社会と学習内容を関連付けたコラム「社会につながる科学」が設定されている。
- 学習指導要領に示されていない内容が「発展」として示されている。
- 他教科で学習する理科に関連がある内容が「(教科名)で学ぶこと」で、マークとともに示されている。
- 各学年で学習した内容に関連する自由研究の例が、巻末に「学びを広げよう 自由研究」が設定されている。
- 「レッツ スタート」「仮説」「分析・解釈」等の内容に関連するヒントが、「理科の見方・考え方」で示されている。

5 全体的な表記・表現について

- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 第1学年の本文が、第2、3学年の教科書と比較して大きい文字で示されている。
- すべての単元に、デジタルコンテンツが用意されている。
- 巻頭に、「基礎操作」、巻末に「発展」の目次が示されている。
- 巻末に、取り外して使用できる教材がある。
- A B判、合冊(学年1冊)で構成されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	1年			2年			3年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
物理領域 (第1分野)	1	58	22%	1	74	25.5%	1	78	24%
化学領域 (第1分野)	1	64	25%	1	74	25.5%	1	60	18%
生物領域 (第2分野)	1	64	25%	1	76	26%	2	80	25%
地学領域 (第2分野)	1	74	28%	1	66	23%	1	60	18%
4領域共通	—	—	—%	—	—	—%	1	50	15%
合計	4	260	100%	4	290	100%	6	328	100%

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験・実習、発展的な内容等の構成

項目等	1年	2年	3年
	項目数	項目数	項目数
観察・調査・観測	9	6	5
実験	10	24	16
実習	4	1	2
発展的な内容を示すマーク	19	28	39

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

		1年	2年	3年
デジタルコンテンツを使って学習できる箇所	物理領域 (第1分野)	6	7	1
	化学領域 (第1分野)	10	1	2
	生物領域 (第2分野)	6	1	0
	地学領域 (第2分野)	1	2	5
	4領域共通	7	12	10

2 主体的に追究する活動に関すること

- 巻頭に、「理科の学習の進め方」が設定されている。
- 単元の導入では、自然の事物・現象と章の構成が見開きで示されており、次に「これまでに学習したこと」「これから学習すること」が図や写真を用いて見開きで示されている。
- 探究の過程が統一された言葉とそれに対応するマークで示されている。
- 単元末に、「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」が設定されている。
- 学習のポイントが統一された色枠で囲んで示されている。
- 探究の過程の学習をサポートするヒントが会話で示されている。

3 観察・実験・野外観察等に関わる内容について

- 観察・実験等の手順が、文章だけでなく図や写真で示されている。また、準備する物にはチェックする欄が設けられている。
- 第1学年の巻頭と第2、3学年の巻末に、「理科室のきまり」が示されている。
- 巻末に、「薬品をとり扱うときの注意」や実験器具の操作方法等が「基本操作」でまとめて示されている。
- 観察・実験等の際の安全に関して注意を促す場面には、「注意」とマークで示され、注意すべき観点を示した文章が統一された色枠で囲んで示されている。
- 観察や実験のためのアドバイスが、「コツ」マークとともに示されている。
- 観察・実験等のページと結果のページが、見開きにならないように構成されている。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 地学領域は全ての学年で4番目に配列されており、他の3領域はそれぞれ異なる順で配列されている。
- 学習内容が日常生活でどのように活用されているかを紹介する「くらしの中の理科」や、学習内容に関わる科学の話題を紹介する「Science Press」が設定されている。
- 学習指導要領に示されていない内容が「発展」として示されている。
- 他分野や他教科に関連する内容が、「つながる×Science Press」で取り上げられている。
- 単元末に、学習した内容と関連する「探究活動 課題を見つけて探究しよう」が設定されている。
- 第1学年の巻末に、「探究の進め方」を設定し、理科の見方・考え方を働かせながら学習する方法の例が示されている。

5 全体的な表記・表現について

- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 第1学年の本文が、第2、3学年の教科書と比較して大きい文字で示されている。
- 複数の単元に、デジタルコンテンツが用意されている。
- 「発展」の資料の下に、資料の内容をいつ学習するかがマークで示されている。
- 巻末に、「くらしの中の理科」「Science Press」「Professional」「科学のあしあと」「基本操作」の目次が示されている。
- B5判、合冊(学年1冊)で構成されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	1年			2年			3年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
物理領域 (第1分野)	1	46	24%	1	62	27%	1	58	25%
化学領域 (第1分野)	1	56	29%	1	58	25%	1	46	20%
生物領域 (第2分野)	1	38	20%	1	64	28%	1	50	22%
地学領域 (第2分野)	1	52	27%	1	48	20%	1	52	23%
4領域共通	—	—	—%	—	—	—%	1	24	10%
合計	4	192	100%	4	232	100%	5	230	100%

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験・実習、発展的な内容等の構成

項目等	1年	2年	3年
	項目数	項目数	項目数
観察・調査・観測	11	4	13
実験	14	24	18
実習	2	0	3
発展的な内容を示すマーク	14	18	27

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

		1年	2年	3年
デジタルコンテンツを使って学習できる箇所	物理領域 (第1分野)	37	53	49
	化学領域 (第1分野)	46	49	37
	生物領域 (第2分野)	29	55	40
	地学領域 (第2分野)	43	39	43
	4領域共通	40	26	53

2 主体的に追究する活動に関すること

- 巻頭に、「教科書の使い方」「なぜ理科を学ぶの?」「理路整然」が設定されている。
- 単元の導入では、「学びのあしあと」「ふり返ろう・つなげよう」「Can-Do List」が設定されており、各章の導入では、自然の事物・現象が見開きで示されている。
- 探究の過程が統一された言葉とそれに対応するマークで示されている。
- 単元末に、「学習のまとめ」が設定されている。
- 単元の導入と単元末で、同じ問いについて考える「学びのあしあと」が設定されている。
- 1時間ごとの課題が「この時間の課題」としてページ右上に示されており、それに対応するまとめは「まとめ」としてページ右下に示されている。

3 観察・実験・野外観察等に関わる内容について

- 観察・実験等の手順が、文章だけでなく写真で示されている。
- 各学年の巻頭に、「どうする、探究の進め方」「どうする、レポート」が示されている。
- 各学年の巻末に、理科室の使い方や薬品の取りあつかい等が「基本操作」で示されている。
- 観察・実験等の、安全に関して注意を促す場面には、「注意！！」マークとともに文章で示されている。
- 探究で注意したい内容が、「ポイント」マークとともに文章で示されている。
- 観察・実験等のページと結果のページが、見開きにならないように構成されているものがある。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 地学領域は全ての学年で4番目に配列されており、他の3領域はそれぞれ異なる順で配列されている。
- 探究の考え方を深めるための「探究を深める 理路整然」が設定されている。
- 学習指導要領に示されていない内容が「発展」として示されている。
- 巻末に、各単元の「補充資料」や「思考をさらに深める」問題が取り上げられている。
- 単元の導入に、「Can-Do List」が設定されており、「どのように学びに向かうか」「どのような知識・技能を身につけるか」「理解していることをどのように使うか」について、それぞれ「できるようにになりたい目標」が示されている。
- ページ下に、この時間で働かせる理科の見方・考え方が示されている。

5 全体的な表記・表現について

- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- すべての単元に、デジタルコンテンツが用意されている。
- 巻頭・巻末に、「基本操作」「補充資料」「発展」の目次が示されている。
- 各章の見開きに、その章に関連するSDGsの目標のロゴが示されている。
- 学習した内容と関連する職業を示す「学習内容と仕事」が取り上げられている。
- AB判、合冊（学年1冊）で構成されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	1年			2年			3年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
物理領域 (第1分野)	1	58	22%	1	76	27%	1	70	23%
化学領域 (第1分野)	1	68	26%	1	72	26%	1	62	20%
生物領域 (第2分野)	1	66	26%	1	70	25%	1	50	16%
地学領域 (第2分野)	1	66	26%	1	60	22%	1	64	21%
4領域共通	—		%	—	—	—%	1	60	20%
合計	4	258	100%	4	278	100%	5	306	100%

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験・実習、発展的な内容等の構成

項目等	1年	2年	3年
	項目数	項目数	項目数
観察・調査・観測	6	4	5
実験	12	20	14
実習	3	0	1
発展的な内容を示すマーク	15	23	30

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

		1年	2年	3年
デジタルコンテンツを使って学習できる箇所	物理領域 (第1分野)	17	22	17
	化学領域 (第1分野)	25	31	13
	生物領域 (第2分野)	35	20	17
	地学領域 (第2分野)	21	17	23
	4領域共通	22	19	51

2 主体的に追究する活動に関すること

- 巻頭に、「探究の進め方」が設定されている。
- 単元の導入では、見開きで自然の事物・現象と単元の構成が示されており、既習事項と学習内容が「学んでいくこと」でまとめられている。
- 探究の過程が統一された言葉と、それに対応するマークで示されている。
- 単元末に、「要点と重要用語の整理」「基本問題」「活用問題」が設定されており、巻末には、「学年末総合問題」が設定されている。
- 単元の各章には導入と章末で同じ内容の問いについて考える、「学習前の私」「学習後の私」が設定されている。
- 探究の過程で、どの学習段階か確認をする「探究の進め方」が折込みになっている。

3 観察・実験・野外観察等に関わる内容について

- 観察・実験等の手順が、文章だけでなく図や写真で示されている。また、準備する物にはチェックする欄が設けられている。
- 巻頭や巻末に、「理科室のきまりと応急処置」「教科書に記載されている主な物質・試薬の一覧」が示されている。
- 巻末に、実験器具の操作方法等が「基礎技能」でまとめて示されている。
- 観察・実験等の安全に関して注意を促す場面には、注意すべきことが「注意」マーク、絶対にしてはいけないことが「禁止」マークで示され、それぞれの観点が文章で示されている。
- 観察・実験等の内容に応じてページ右上に、「室内換気」「保護眼鏡」「廃液処理」マークが示されている。
- 観察・実験等のページと結果のページが、見開きにならないように構成されているものがある。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 4領域について、第1学年では生物、化学、地学、物理の順に配列されており、第2、3学年では化学、生物、地学、物理の順に配列されている。
- 科学の話題を紹介する「ハローサイエンス」と、学習に関連のある科学者について紹介する「科学者列伝」が設定されている。
- 学習指導要領に示されていない内容が「発展」として示されている。
- 「これまでの学習」を思い出す場面には、「おさらい」が設定されている。また、小学校で学習した内容と関連があることが、「ブリッジ算数」「ブリッジ国語」で示されている。
- 各単元に1~2か所ずつ「疑問から探究してみよう」が設定されている。
- すべての学年で、災害に関連する章が設定されている。

5 全体的な表記・表現について

- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 第1学年の本文が、第2、3学年の教科書と比較して大きい文字で示されている。
- すべての単元に、デジタルコンテンツが用意されている。
- 巻末に、「基礎技能の一覧」「ハローサイエンス」の目次が示されている。
- SDGsに関連するコラムには、SDGsの目標のロゴが示されている。
- AB変型判、合冊(学年1冊)で構成されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	1年			2年			3年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
物理領域 (第1分野)	1	58	25%	1	74	27%	1	74	24.5%
化学領域 (第1分野)	1	64	28%	1	70	26%	1	66	22%
生物領域 (第2分野)	1	44	19%	1	64	23.5%	1	44	14.5%
地学領域 (第2分野)	1	64	28%	1	64	23.5%	1	54	18%
4領域共通	—	—	—%	—	—	—%	1	64	21%
合計	4	230	100%	4	272	100%	5	302	100%

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験・実習、発展的な内容等の構成

項目等	1年	2年	3年
	項目数	項目数	項目数
観察・調査・観測	7	4	6
実験	15	21	17
実習	2	4	2
発展的な内容を示すマーク	13	20	23

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

		1年	2年	3年
デジタルコンテンツを使って学習できる箇所	物理領域 (第1分野)	35	39	44
	化学領域 (第1分野)	38	39	29
	生物領域 (第2分野)	20	48	23
	地学領域 (第2分野)	40	37	32
	4領域共通	22	13	45

2 主体的に追究する活動に関すること

- 巻頭に、「この教科書の使い方」「ICTの活用」が設定されている。
- 単元の導入では、自然の事物・現象が紹介され、「学びの見通し」で単元の構成が示されている。
- 探究の過程が統一された言葉で示され、「考察」の後に「探究のふり返り」が設定されている。
- 単元末に、「学習のまとめ」「力だめし」が設定されている。また章末に、「Review」が設定されている。
- 単元の導入と単元末で、同じ問いについて考える「学ぶ前にトライ!」「学んだ後にリトライ!」が設定されている。
- 単元の各章の導入で、「つながる学び」が設定され、既習事項が示されている。

3 観察・実験・野外観察等に関わる内容について

- 観察・実験等の手順が、文章だけでなく図や写真で示されている。
- いくつかの単元の冒頭や巻末には、「実験を正しく安全に進めるために」「顕微鏡の使い方」等が「サイエンス資料」で示されている。
- 観察・実験等のページ右上に「観察・実験の注意・安全マーク」が示されている。また、安全に関して注意を促す場面には、注意する観点がマークと文章で示されている。
- 各単元で、観察・実験等のうち1つが仮説を立てたり、実験を計画したりする「探Q実験」「探Q実習」として設定されている。
- 観察・実験等でICTの活用が適した場面では、「ICTでトライ」が示されている。
- 観察・実験等のページと結果のページが、見開きにならないように構成されている。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 4領域が、すべての学年で生物、地学、化学、物理の順で配列されている。
- 科学コラムとして、「部活ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」「防災減災ラボ」「深めるラボ」が設定されており、単元末に、「ひろがる世界」が設定されている。
- 学習指導要領に示されていない内容が「発展」として示されている。
- 同じ学年で、関連する学習のページが「つながるページ」が示されており、他教科と関連する内容が「〇〇と関連」で示されている。
- 科学の歴史に関する話題を紹介する「科学史」が設定されている。
- 単元末には、探究の過程に沿って学習していく「みんなで探Qクラブ」が設定されている。

5 全体的な表記・表現について

- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 第1学年の本文が、第2、3学年の教科書と比較して大きい文字で示されている。
- すべての単元に、デジタルコンテンツが用意されている。
- 巻頭に、「継続観察」「観察・実験などの技能」「発展」「科学コラム」「サイエンス資料」等の目次が示されている。
- 巻末に、取り外して使用できる「探Qシート」がある。
- A B判、合冊(学年1冊)で構成されている。

